2016年度里山学研究センター報告書について

龍谷大学里山学研究センター　副センター長
村澤真保呂

今回の報告書は、主として昨年度より開始した５年間のプロジェクト「琵琶湖総合研究」の二年目の研究報告・活動報告を掲載しています。このプロジェクトは、これまで当センターで蓄積してきた里山学研究にもとづき、その成果を市民社会へ具体的な形で還元することを目的としています。プロジェクトの一年目にあたる昨年度は、プロジェクト全体の骨格をなす基礎的研究に注力し、折しも「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」（2015年９月28日公布・施行）がプロジェクト開始とほぼ時を同じくして施行され、その方針と内容が本プロジェクトの内容に深く関わることから、滋賀県の行政関係者・研究者とも連携を図り、新たな研究ネットワークの構築を図ってきました。二年目の2016年度は、琵琶湖水域圏研究のモデルケースのひとつとして愛知川流域（東近江市）を選び、実態調査をはじめとする研究に着手し、年度末には愛知川流域を主題としたシンポジウムを開催するにいたりました。この2016年度の報告書は、それらの研究成果を中心とする内容としてまとめています。

来年度以降もさらなる調査と研究を重ねていき、最終的には持続可能社会の実現に向けた次世代社会モデルの構築とそのための政策提言（「琵琶湖イニシアティブ」）をまとめる予定です。

（付録）琵琶湖総合研究とは

本センターでは、2015年度からは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、主に琵琶湖水域圏を中心に、３つの研究班と総合研究班により研究活動を進めています。

第１研究班　「水と生命」研究班

琵琶湖の水系環境の現状と歴史的変遷の研究を基に、琵琶湖水域圏の生物多様性と生態系保全の仕組みを解明し環境保全ツールの研究を行います。

①　琵琶湖水域圏環境の現状と変遷の基礎研究
②　圏域の生物多様性と環境保全ツールの研究

第２研究班　「資源と産業」研究班

水域圏環境に大きく作用する森林資源の持続可能な管理・利用の研究を基に、地域における持続可能な再生可能エネルギーの利用可能性と持続可能な森林管理、新しい農業政策の研究を行います。

①　森林バイオマス生成・固定、管理・利用の研究
②　循環型環境保全農業政策の研究、地域の「食」の研究

第３研究班　「人と暮らし」研究班

最新の景観地理学と防災学の知見を取り入れ、研究成果を地図上で総合化することで、自然

に調和した社会の構築に向けた研究を行います。

① 地質・防災学、地域・景観生態学：マッピング
② 生活文化上の資源循環型コミュニティの関係性構築

総合研究班

各班の成果を総合的に取りまとめ、都市部を包括した、人間と自然環境との持続可能な関係の再構築をめざす「琵琶湖イニシアティブ」を提唱します。

① 環境倫理
② 環境教育
③ 地域・環境政策

プロジェクトイメージ

